活動レポート

KOMEITO 公明党

YAMAMOTO MIWA

茨城県議会議員

山本みわ

つなぐ。つくる。つくば。

Vol. 1
2023年1月発行

感染拡大防止対策を十分講じながら、徐々にイベントや観光事業も復活し、社会経済活動も回復の兆しが見えてきました。
一方、「働き方」や「暮らし方」が大きく変化するとともに、社会活動のデジタル化が急速に進む中で、安心と希望の持てる未来を切り拓くための政策が求められています。
人と人をつなぐ。人とまちをつなぐ。市と県をつなぐ。
皆様からいただいたたくさんのお声を、政策へとつなげてまいります。どうぞ皆様のご意見ご要望をお待ちしております。

PROFILE

東京都練馬区出身。都立大泉高校卒。創価大学教育学部卒。
公明党女性局次長。元つくば市議会議員４期。
2022年12月茨城県議会議員選挙つくば市選挙区において初当選。
防災士。つくば市環境マイスター。こども食堂Gチェリー共同代表。

山本みわ
公式LINE

山本みわ
Youtube
チャンネル

2023年1月10日、初登庁いたしました！

２０２２年１２月１１日投開票の茨城県議会議員選挙つくば市選挙区におきまして、１１，３５５票で初当選させていただき、本年１月１０日、茨城県議会議事堂（水戸）へ初登庁し、県議会議員としての活動がスタートいたしました。
１月２０日には、臨時議会が開かれ、議席番号１０番、総務企画委員会、情報委員会に所属いたしました。
臨時会では、「原油価格・物価高騰対策」「出産・子育て応援事業」「幼稚園などの送迎バスの安全装置設置費用補助」など366億円の補正予算が可決されました。

県議会議事堂にて

茨城県議会公明党

臨時医療施設（つくば市南原）

いばらき消防指令センター（水戸市）

皆さまとの対話を大切にします

山本みわ県政報告座談会
みわCafé

茨城県政やまちづくりについて皆様とアットホームにお話しする報告会を開催していきます。
第１回目は３月下旬に予定しています。
詳細が決まりましたら、ホームページや活動通信でお知らせいたします。

おひさまフォーラム主催

予約不要

【生活なんでも相談会】

1月28日(土)　13:30～15:30
つくば市役所コミュニティ棟第5会議室

生活のこと、地域のこと、子育てのこと、教育のこと、福祉のことなどお気軽にご相談ください

次回２月下旬開催予定

皆さまのお声が実現しました！

【つくば市おくやみ窓口】

ワンストップで手続きが済みます
2023年1月30日よりスタート！

つくば市役所本庁舎2階　45番窓口
１日２枠
電話での事前予約制
029-883-1111
（平日8:30～17:15）

発行元：山本みわ後援会　つくば市松代2-21-10　080-9804-9526　info@miwatsukuba.com

新型コロナ感染症対応の「臨時医療施設」を現地調査

１月１２日、茨城県議会公明党で、茨城県がつくば市に設置した「新型コロナ対応の宿泊療養施設」と発熱外来（ドライブスルー方式のＰＣＲ検査施設）を、現地調査しました。
日本財団つくば研究所跡地（つくば市南原）に、１月から約２カ月程度開設の予定です。

この施設は、新型コロナに感染し、医療が必要な介護度の高い高齢患者が主対象で、地域医療機関や保健所から県の入院調整本部を通して決めます。病床は２００床で、医師２名、看護師３４名、介護士１６名、薬剤師２名など総勢７５名（日中）が常駐しています。
また、病棟は移動式住宅ですが、木材を使用していて、体育館などに設ける臨時の医療施設のイメージとは異なり、快適な環境を提供し、車いすでも利用できるようすべてバリアフリーになっています。
看護・介護の動線に合わせた設置や、ゾーニングもされています。

臨時の発熱外来のＰＣＲ検査は１日最大３００人。ドライブスルー方式で、３時間後にはメールで検査結果が出て、オンライン診療受診や薬の処方・配送も可能です。
ＰＣR検査は無料。県ホームページからの事前予約制になります。
有料でインフルエンザ（２０００円）との同時検査が可能です。
※茨城県ホームページから申し込みが出来ます ➡➡➡

「いばらき消防指令センター」を視察調査

１月１７日、茨城県議会公明党で、水戸市内原町の「いばらき消防指令センター」を、視察調査しました。
「いばらき消防指令センター」は、2016年６月の消防救急無線のデジタル化に併せ、茨城県内３４市町・２１消防本部によるデジタル無線の共同整備を実現。３３市町２０の消防本部からの１１９番通報を一括して受け付ける指令センターの共同運用により、GPSなどを活用し全ての出動車両を把握・管理し、増大する救急需要に対応する仕組みです。

指令室を集約したことから、バラバラで指令業務を行っていた時よりも、１９９人→４８人へと人員削減し、その分現場要員を充実させることができました。また、兼務から専従することで高度な研修訓練をうけた指令員による的確な掌握・判断、指令送出により現着時間の短縮が図られました。

その他、聴覚や言語に障害がある方のための、インターネットやFAXを利用した緊急通報システムや、スマートフォンからの映像通報システム(Ｌｉｖｅ１１９)など、先進的な取り組みがなされています。
特に、2021年１０月１日から実証実験をしている【Ｌｉｖｅ１１９】は、スマートフォンからの１１９番通報者に、現場の状況を動画で送ってもらうことで、１１９番通報の見える化を実現。例えば、人口呼吸やＡＥＤの操作など、指令センターの専門家から直接画像を通して、指示やアドバイスを行うことも出来、救命率の向上などが図られます。

これらの取り組みにより大規模災害への対応強化と、逸早い指令送出が期待されます。